



AN ROINN | DEPARTMENT OF
OIDEACHAIS | EDUCATION
AGUS SCILEANNA | AND SKILLS



建築デザイン・コンペティション

都市部の小学校
ハーコート・テラス、ダブリン2
アイルランド共和国
のために
教育技能省

教育概要

都市環境における新しい小学校の建築設計コンペティション2014

24教室の小学校のコンペ概要と収容スケジュール 長期校生徒数 672人に基づく 特別支援学級 2クラス12名

はじめに

都市環境における新しい小学校の建築設計コンペは、2013年教育技能省の計画「建築ユニットによって開かれた学習者のための小学校建築のためのアイデアコンペ」の概要と同じ原則を前提としている。両コンペの概要は、学校デザインに関する国内外の最新の研究結果に基づいている。

このブリーフィング・ドキュメントは、このコンペに特化したものである。設計の実施において達成されるべき教育的目的を概説し、宿泊施設のスケジュールを組み込んでいる。このブリーフに含まれる教育的目的を十分に認識してない設計は考慮されない可能性があります。

このデザインは目指すべきもの:

- 生徒間のピアサポートワークやプロジェクトベースの共同作業を容易にする。
- 学習者のさまざまな学習スタイルを可能な限り補完し、教師がこれまで以上に個々の学習者のニーズに合わせた教育体験を提供できるようにする。
- 生徒が強い対人スキルを身につけ、自信を持ち、自己を認識できるようにする。
- 生徒が変化と適応の能力を伸ばすのを助ける。
- 学校の管理職と教師が、優れた教育実践を簡単に特定し、共有できるようにする。
- 教師の職業活動に関する内省と自己評価を支援し、その育成を助ける。
- 互いのベストプラクティスや学習者から学ぶことを通じて、教師の専門能力開発をサポートする。

設計過程で参照される技術ガイダンス文書は、コンペティション・パックに記載されている。

アイルランドの初等教育に関する文脈的情報

- アイルランドの小学校教育は、8年制で行われ、9月初旬から翌年6月末までの学年を各学年で過ごす。8学年とは、ジュニア・インファント（小学校に入学する生徒は4歳以下でなければならない、この学年ではほとんどが4〜5歳）、シニア・インファント（この学年では通常5〜6歳）、1〜6^(st) クラス（6^(th) クラスの生徒は通常2〜13歳）である。1学年は、小学校の各学年で過ごす。2013-4年度のアイルランドの小学校の平均学級数は29人だが、実際の学級数や生徒の体格はさまざまである。24教室の学校の概要では、各学年3クラスずつの設計となる。
- 初等教育カリキュラムは学習者中心のカリキュラムで、アイルランドのすべての国立小学校で教えられている。カリキュラムは漸進的で客観的なものである。初等教育では、アイルランド語（Gaeilge）、英語、数学、社会、環境、科学教育（SE）（歴史、地理、科学から成る）、音楽、視覚芸術、演劇、社会、個人・健康教育（SPHE）、体育（単にスポーツやゲームだけでなく、幅広い分野を含む科目）を学びます。¹ すべての教科は全学年で教えられている。構成された遊びは Aistear Framework Curriculum（アステア・フレームワーク・カリキュラム）² の実施により、多くの幼児教室で促進されている。学習と生活のための読み書きと計算能力: National Literacy and Numeracy Strategy³ も、生徒の識字能力と計算能力を高めるために学校で実施されている。

¹ 小学校のカリキュラムは、からオンラインで入手できる。

² アステア・フレームワーク・カリキュラムは、www.ncca.ie > Early Childhood Educationからオンラインで入手できる。

（注「Aistear」はアイルランド語で「旅」を意味する）

³ 国家識字・能力戦略は、www.education.ie からオンラインで入手できる。

包摂的な原則

- 学校の設備は、物理的、心理的、社会的に安全な場所ではなければならない。子どもの成長、健康、学習、ウェルビーイングを促進し、教師や中間の生徒との積極的な交流を促進するものでなければならない。学校における教師の役割は、全体的によく構築された学校の枠組みの中で、子ども同士や子どもと教師の交流を促進することである。
- アイルランドの小学校の教師は、日常的な監督に関して、親がかりである。自信を持った学習者を育てるために、相互諍論の雰囲気奨励することは、最も成功している小学校の重要な目標である。生徒を管理し、各生徒がどこにいるかを常に把握することに懸念を抱かせるようなレイアウトの物理的な特徴は、教師が成功する学習の実現に集中できるよう、最小限に抑えるべきである。そのためにも、生徒が校内のさまざまな場所へ出入りするのを制限するのではなく、生徒が安全で大切にされていることを知ることができるように、教室から教師ができるだけ見通せるような設備としなければならない。生徒もまた、できるだけ多くの機軸を確保することで、自分たちが安全で大切にされていることを知ることができ、自然と自信をつけることができる。

教室

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
24	80	収納を含む教室ベース(最小 25.8m	1,920
		生徒用トイレ(1クラスあたり5m ²)の許容量、教室ベースに隣接したグループでも可	
		生徒用コート置き場(教室群に隣接)	
		教室ベースに隣接する、あまり正式ではない学習スペース(読み書き、ICT、納)。 (1教室あたり 80m ² の許容範囲における残りの面積の可能性を参照)	

- 完全なオープンプランのエリアは、多くのクラスの授業や学習のための唯一のエリアとして避けるべきである。
- このコンペの設備概要には、24の主流教室がある。現在、小学校の主流教室は、実際には自己完結型のセラーユニットであり、各教室の総面積は 80m²である。しかし、現在の教室で教師と生徒が使用できる学習・教育スペースは、53m²とかなり低い。このため、教室ベースの学習・教育スペースを 58m²に最適化する予定である。これにより、使用可能な面積が増え、バリアフリーのアクセスも容易になる。
- 教室のデザインは、アイルランドの初等教育教師の現在の期待に完全に応えるだけでなく、発展途上の教育学的傾向や教育能力を先取りしたデザインにすることも重要である。教室の構成が柔軟性があることは歓迎すべきことであり、教室が完全に自己完結した細胞単位であるというコンセプトは、この設備において挑戦されるべきである。
- 他のスペースへのアクセスを容易にする、教育と学習の拠点としての教室が強く奨励される。教師は教室で快適に過ごすことができるが、他の教育スペースの可能性を自然に観察できるようにし、教育の革新が有機的に生まれるようにすべきである。教室は過剰にデザインされるべきではなく、教師や生徒が自分たちの教室でできるようなものであるべきです。収納は可能な限り完全に組み込み式にする。
- 説明資料や生徒の作品を展示し、学習者に教育空間の所有権を与えることは重要である。展示場所を最大限に活用するための革新的な解決策を検討すると同時に、クラススペースの外壁や内壁に、日中の採光、眺望、視覚的な透明性を確保するためのグレーディングを最適に使用する必要がある。
- シンクや水回り、コンピュータースペース、クローク、トイレへのアクセスなど、教室であまり使用されていない場所は、教育目的に最適に使用できるように、教室から他の部分に開放させるべきである。教室は、平均的な生徒数 29人のクラス、主要な学習拠点として快適に使用できるものでなければならない。また、教室の外側の隣接するスペース(建物内と建物外の両方)への踏み台となるべきで、教師と生徒がこれらの場所へ出入りして学習に利用することを促す。
- 各教室には、短焦点デジタルプロジェクター付きのインタラクティブ・ホワイトボードを設置する。設置場所の選定は、自然光によるまぶしさを最小限に抑えるよう注意すべきである。

- ほぼすべての ICT利用は、教室のワイヤレス・インフラでタブレットやノートパソコンを使い、共有スペースのコンピュータ・ポイント数台で補完する。教室には、ワイヤレスネットワークアクセスポイントと、インタラクティブホワイトボードの近くに有線のネットワークポイントを1つずつ設置する。
- ほとんどの教室の場合、建築家は、2人以上のクラスが共有する教室の外にもトイレを設けることを検討すべきである。幼児用の教室では、エンスイート・トイレを引き続き採用することもできる。あるいは、ごく近くに他の革新的な解決策を検討することもできる。トイレは男女別にする。教師の監視に対する不安を和らげ、授業や学校生活への不必要な話を最小限に抑えるため、生徒がトイレに行くときは、常に教師の目の届くところにあるべきである。教師から離れることへの生徒の不安や、いじめの可能性への不安を和らげるため、トイレはクラスの拠点の近くに設置する。洗面台は、トイレに隣接して循環式でなくともよい。
- クロークや上着置き場は、一般的に教室内に設置すべきではない。外遊びや教育のための着替えのために、出入口の近くに設置する。そのスペースの監視は容易であるべきである。
- 外部の学校環境へのアクセスは、デザインによって可能な限り容易であるべきである。内部と外部の学習スペースのつながりの重要性は、デザインから明らかでなければならない。
- 校舎のエネルギープロファイルと設備の持続可能性は、設備が小・中学生にとって適切な規範となるよう慎重に設計されるべきである。生徒の環境に対する意識をさらに高める上で、設備は省エネルギーと持続可能な材料の使用の重要性を照明する役割を果たすべきである。

教室を超えた、よりフォーマルでない教育スペース:

- 小学校は教務別の部屋を必要ない。特定の科目群における学習を強化するための革新的なエリアや学習センター（教室の外）を構築する必要がある。
- 廊下として構成されている現在の循環スペースは、そのほとんどが、教師や生徒が自己完結型のセラー教室を行き来するためのものである。このような循環スペースは、潜在的な教育・学習スペースとして再認識されるべきである。このようなスペースは、生徒が共同知識構築やグループ・ディスカッションに取り組んだり、静かな読書や内省の場として、生徒の読み書き能力の発達をサポートするものでなければならない。教室の外側にあるあまりフォーマルでないスペースには、水遊びや科学実験、幼用向けの遊び、芸術の探求、内省的な活動のための静かなスペースなどがある。従来のサーキュレーション・スペースとして使われていたスペースを再編成し、（1教室あたり80m²という許容面積の中で）残されている可能性のあるスペースと組み合わせることで、建築家はこの 24教室の設備の中で、この教育目標を革新的に実現可能な床面積を確保できるはずである。
- フォーマルでない学習スペースは、少人数のグループ指導、子どもたちが仲間や年下・年上の生徒と一緒に作業する少人数のグループ作業、研究、静かな ICT作業、一人またはグループで読書をするスペースなど、複数の用途に使える可能性があるべきである。
- このようなスペースの使用は、子どもの発達につながる日常的な簡単な社会構築を促進するものでなければならない。その目的は、子どもが幼い頃から責任感と自立心を養えるようにすることである。
- 教室の外にある、あまりフォーマルでない学習スペースは、教師が利用するよう「誘う」ものでなければならない。これらのスペースに設置される家具は、アクティブな学習アプローチや生徒同士の共同作業を可能にするものでなければならない。
- 全体的な見通しの必要性はともかく、あまりフォーマルでない学習スペースは、生徒が単独で、あるいは小グループで、快適かつ安全に新しい知識を考察したり、試したり、反応したりできる半個室のような場所を提供すべきである。

スクール リーダーシップと専門職形成

- 教室を含むすべての教育スペースは、学校の教育と学習の主要な指導者である校長が容易に利用できるようにすべきである。
- 成功している学校経営チームは、初等教育カリキュラムの実施と教師の専門的能力開発を支援するため、カリキュラム提供の革新を主導している。これは、設計の内側にもっと視覚的な透明性を導入することによって促進されるべきである。
- デザインは、教師が現在行っている教育実践の期待に応えるものでなければならないが、同時に、教師がその専門性を自然に拡張できるものでなければならない。したがって、設計は、教師や生徒が学習や教育のためにさまざまな場所を使うことを奨励するのではなく、誘い込み、力を与えるものであることが重要である。教師は、他のスペースが教育に使われる大きな可能性を持っていることを認識できなければならない。教員は、同僚や同僚のクラスがそのスペースを使っているのを見ることができなければならない。

インクルーシブ教育:

- アイルランドの小学校は、特別支援教育に関して包括的な学校である。一部の児童はメインストリームのクラスで教育を受け、その他の児童は特別授業室や多目的ルームで、またその他の児童は特別クラスで、それぞれの必要性に応じて追加的なサポートが提供される。

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
2	20	多目的ルーム	40
4	15	特別教育ルーム	60

- 特別教育室は、15m²の部屋であり、一般的な学習障害や特定の学習障害、英語が必要な生徒が、担任教師からのサポートに加え、サポート教師からの追加授業を受ける場所である。これらの部屋は、他の潜在的な学習エリアとの接続を可能にするような、革新的な機能性を求めるべきである。スペースは、ペア学習や少人数のグループ学習ができるように生産的に使用されるべきであり、同時に生徒にとって落ち着いた場所であるべきである。また、学習ニーズのある生徒のための追加授業は、学校内のあまり正式でない教育場所でも行われることが予想される。
- このコンペの Brief に基づく特別クラスを含む完全な特別支援ユニット（ SNU）が含まれています。ガイダンス文書「特別な教育的支援を必要とする生徒のための小学校特別教育施設」（ 026）の全文は、コンペティション・パックに含まれている。

スペース数	面積 m ²	生徒と教師の比率を 6:1として、SENを持つ12人の生徒が通う小学校のための施設	総面積 m ²
1	80	セントラル アクティビティ・スペース	80
2	70	教室 安全基地(トイレと倉庫を除く)	140
2	12	教室に付随する小さなセーフスペース - セーフベース	24
2	15	エントランス・トイレ&シャワー エリア	30
1	20	多感覚ルーム	20
1	15	視覚室	15
1	10	スタッフ用トイレ	10
1	10	リネン/水栓室	10
1	30	ストレージ	30
1	15	オフィス	20
		特別支援ユニット(SNU) 小計	379

- 特別な教育的ニーズは、「特別な教育的ニーズを有する者のための教育(EPSEN) 法」(アイルランド、2004年) において、次のように定義されている: 「永続的な身体的、感覚的、精神的健康状態、学習上の障害、またはそのような状態のない人とは異なる学習をすることになるその他の状態を理由として、その人が教育に参加し、その恩恵を受ける能力に制限があること」と定義されている。特別な教育的支援を必要とする子どもたちは、可能な限り、特別な教育的支援を必要としない子どもたちと一緒に、インクルーシブな環境で教育を受ける。インクルーシブな環境を確保するために、施設において守るべき重要な原則は、SNUガイドに記載されている。インクルーシブな環境は、特別な教育的支援を必要とする児童生徒が注目のクラスで統合され、また、特別な教育的支援を必要としない児童生徒が特別なクラスで同級生と一緒に働いたり、交流したりする、逆の統合を提供する。

その他のスペース

- 児童の読み書きの能力を伸ばすという観点から、図書館は、小学校の設計の中で、引き続き重要な位置を占めるべきである。図書室は、読書を促し、本やその他のメディアを好きにさせるものでなければならない。学校内の図書館の位置やデザインについて、革新的なアイデアを模索することができる。 24教室の学校には、図書室とメディアエリア、それにリソースエリアがある。リソース・エリアは、様々な補助的な教育や学習の目的、また ICT を使った作業など、その他の用途に使用することができる。

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
1	66	ライブラリー&メディア・エリア	66
1	33	リソースエリア	33

- メインストリーム 24教室のデザインは、195m²の大きな多目的室が1つあり、合計390m²ある。一般目的室は通常体育で使用されますが、最近では他の教科やウォーマンス、集会にも使用されるようになってきました。この部屋の革新的な利用法を歓迎する。収納は最大限活用されるべきである。このエリアは、学校の授業が終わった後も地域住民が利用でき、近くにトイレがあり、学校木材から独立して利用できるようにする。この学校最大のスペースの比率は重要である。敷地の制約を考えると、クリア階やレフライトの利用が、敷地計画やマスキングの助けになるかもしれない。

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
2	195	汎用ルーム- 運動	390
2	8	汎用ルームサーバー- 複合型	16
2	20	体育用具店	40
2	15	生徒用トイレ(各一般目的 4つ)。	30

- 24のメインストリーム教室は、75名教師職員室がある。教師は、職員室のデザインに配慮がなされていることを知ることができるはずだ。専門的な話に値する部屋であるべきで、休憩だけでなく、専門的な話のためのスペースの可能性を考慮すべきである。スペースを細分化して休憩スペースを作る可能性を探ることもできるだろう。教師のためのトイレを近くに設けるべきである。
- 学校には、一般事務室、校長事務室、副校長事務室の3つの事務室がある。これらの事務室は、必ずしも隣接している必要はないが、近くにあるべきである。いずれも玄関のある階に設置する。一般事務室は、来客の迎撃と警備のために、正面玄関のすぐそばに設置する。

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
1	25	総務/一般事務	25
1	15	校長室	15
1	15	副校長室	15

- すべてのスペースの音響プロフィールは非常に注意深く考慮する必要があります。この点に関するガイダンスは、コンペティションパックに含まれる「Acoustic Performance in Schools」に記載されています。

外部の学校環境

- 建築家は、校舎を取り囲む外部環境を、質の高い学習の潜在的な場として設けることに、できる限り配慮すべきである。直接的または間接的に、学校の屋外空間との結びつきを強めれば、外部での学習や授業がより頻繁に行われるようになるはずである。学校の外部環境は、レクリエーション目的だけでなく、潜在的な学習環境としてとらえるべきである。質の高い周辺整備により、生徒が校舎外や敷地内で定期的に学習できるようにすべきであり、そのような活動をしている間は、生徒の安全と安心を確保すべきである。内部環境と外部環境間の移動() 能力が限り容量に耐えるようにすると同時に、建物内の快適レベルやエネルギー使用量にも配慮すべきである。

- 外部スペースの設計において、建築家は、体育のカリキュラムだけでなく、アイルランドの小学校のカリキュラムの幅を考慮し、適切な場合、校舎を取り囲む環境の中で、様々な科目の学習をどのように促進できるかを探るべきである。敷地の物理的な制約を考えると、次のような外部空間を可能な限り提供するための革新的な解決策を探ることが非常に重要である。屋上や屋根のある外部スペースの利用も考えられる。

スペース数	面積 m ²	外部スペース	総面積 m ²
3	585	外部コート	1,755
2	300	ジュニア・プレイ・エリア	600
1	200	SNU 安全なハード & ソフト・プレイ・エリア	200
1	100	SNU 感覚の庭	100

- アイルランドの悪天候を十分に考慮し、レクリエーションと学習の両方に外部環境を最大限に活用するよう努めるべきである。
- 生徒のための外部レクリエーションエリアは、様々なサーフェスでのグループプレーやチームプレーを奨励すべきである。
- プレイスペースの向き、方角、能動的・受動的な監督は、慎重に検討されるべきである。

付録

24教室の小学校の収容スケジュール 特別支援教育ユニット

スペース数	面積 m ²	スペースの説明	総面積 m ²
24	80	収納を含む教室ベース(最小 25m ² ×8m) 生徒用トイレ(1クラスあたり5席)の許容量、教室ベースに隣接したグループでも可 生徒用コート置き場(教室に隣接している場合もある) 教室ベースに隣接する、あまり正式でない学習スペース(読み書き、ICT、納)。 (1教室あたりの許容面積 全体における残存面積の可能性を参照)。	1,920
2	195	汎用ルーム-運動	390
2	8	汎用ルームサーバー-複合型	16
2	20	体育用品店	40
2	15	生徒用トイレ(各一般目的室に4つ)。	30
1	66	ライブラリー&メディア・エリア	66
1	33	リソースエリア	33
2	20	多目的ルーム	40
4	15	特別教育ルーム	60
1	25	総務/一般事務	25
1	75	教職員室	75
1	15	校長室	15
1	15	副校長室	15
4	10.5	介助者用トイレ/シャワー	42
2	4.5	自立したユーザーのためのユニバーサル アクセシブル トイレ	9
4	3.5	大人用トイレ(スタッフと一般利用者)	14
1	50	一般保管(セキュア、クリーニング店、外部を含む)	50
1	6	配電盤	6
1	8	データ通訳センター	5
		小計 学校	2,851
		プラス2教室 特別支援ユニット(SNU) (次ページに詳述)	379
		総面積	3,230
		内壁 /パーティション@ 7	226
		内部階段 @ 21	678
1	25	ボイラーハウス	25
		延床面積(階段・エレベーターを除く)	4,159
		プラス階段 1階につき25m ² プラス10m ² (エレベーター)	
		延床面積(階段・エレベーターを含む)	
		生徒と教師の比率を 6:1として、SENを持つ12人の生徒が通う小学校のための宿舎	総面積 m ²
1	80	セントラル アクティビティ・スペース	80
2	70	教室 安全基地(トイレと倉庫を除く)	140

2	12	教室に付随する小さなセーフスペース - セーフベース	24
2	15	エンスイート・トイレ&シャワー エリア	30
1	20	多感覚ルーム	20
1	15	視覚室	15
1	10	スタッフ用トイレ	10
1	10	リネン/水栓室	10
1	30	ストレージ	30
1	20	オフィス	20
		特別支援ユニット (SNU) 小計	379

		外部:	総面積 m ²
3	585	外部ボールコート	1,755
2	300	ジュニア・プレイ・エリア	600
1	200	SNU 安全ハード & ソフト・プレイ・エリア	200
1	100	SNU 感覚の庭	100
	16	教職員および訪問者用駐車スペース	